TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

これが神のやり方-神さまが計画された救いの方法
律法と戒めの役割　ローマの信徒への手紙 7 章 7 節-13 節

2026 年 10 月 24 日 & 25 日
余沢 武　牧師

I. はじめに

こんにちは。ローマの信徒への手紙では、私たちはみな罪人であっても、イエスが私たちの罪の罰を代わりに受けてくださったと信じれば、次のようなことが私たちに該当すると学びました。
赦され、義とされます。
もはや「法の下」―神の律法、つまり神の御言葉に努力しても従うことができず、死に向かっている状態―にはもういません。
私たちは恵みのもと、イエスの権威のもとにあり、神の性質である実を結びます。

「律法の下」にいることが死に至るものだとしたら、律法は悪や罪深いのでしょうか。今日はここに焦点を当てます。

まず、祈りましょう。

II. 律法と戒めの役割

(1) 法律の役割

ローマ 7:7-8 を見てみましょう。「7 では、何と言うべきでしょうか。律法は罪なのか。決してそうではない。だが、律法によらなければ、私は罪を知らなかったでしょう。律法が「貪るな」と言わなかったら、私は貪りを知らなかったでしょう。8 しかし、罪は戒めによって機会を捉え、私の内にあらゆる貪りを起こしました。律法がなければ罪は死んでいたのです。」

罪の報酬が死であり、律法の下にいるのも死に至ることであれば、当然「律法は罪なのか。」という疑問が生まれます。パウロはこう言います。「決してそうではない。だが、律法によらなければ、私は罪を知らなかったでしょう。彼が言うには、律法があるからこそ私たちは罪を知ることができるのです。

エデンの園に、神はアダムとエバというふたりの人間を住まわせました。ふたりは無垢な生活をしていました。しかし、彼らは本当に無垢だったのでしょうか。そうかもしれませんが、単純にそうであったかどうかを知るすべはありませんでした。それは律法、戒めが与えられるまでは、でした。

そこで、神は言いました。
「園のどの木からでも取って食べなさい。ただ、善悪の知識の木からは、取って食べてはいけない。取って食べると必ず死ぬことになる。」(創世記 2:16b-17)
この戒めによって、アダムとエバには神を信頼し従う選択肢と罪を犯し、神を疑い、神に背く選択肢を与えられました。彼らは従いませんでした。それによって、彼らの罪は明らかにされました。

パウロは、十戒の十番目の戒めを理解したときに、自分も全く同じ経験をしたと言います。
「隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛とろばなど、隣人のものを一切欲してはならない。」(出エジプト 20:17)

「欲する」とは、「なにか、特に他人が持っているものを強く欲する」という意味です。
十戒の中で、この戒めだけが私たちの心の奥底にある欲望について言及します。
イエスはこの戒めをこのように適用していました。
「…情欲を抱いて女を見る者は誰でも、すでに心の中で姦淫を犯したのである。」(マタイ 5:28)

ここでも適用していました。
「…『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、私は言っておく。きょうだいに腹を立てる者は誰でも裁きを受ける。…」(マタイ 5:21-22)

この罪は、私たちが神とその備えよりも、誰かもしくは何かを大事にして喜ぶ、という罪です。

私は、「私はクリスチャンになる必要はない。十戒のすべてを守っているから」とクリスチャンの方に自慢していたクリスチャンではない男性を知っています。パウロによると、彼もこの男性と同じ状態だったと言い

ます。それは「貪るな」という戒めの意味を理解するまでは、でした。

そして次にこう言いました。
「…罪は戒めによって機会を捉え、私の内にあらゆる貪りを起こしました。」

「機会」という言葉は、「軍事作戦の出発点として、使用される軍事基地」を指します。
パウロが言おうとしていることは、これです。彼が「貪るな」という戒めの意味を理解した途端に、彼の中にある罪はそれを発射台として、次から次へと様々な攻撃を仕掛けてきて、貪っていること、神に対して罪を犯していることを言ってくる、と。
あなたが持っていない家、車、ろば、iPhone について考えている時。
他人が持っている関係、夫、妻のことを考えている時。
自分が欲しい喜びや満足感について考えている時。
羨ましいと思っているお金や地位、成功について考えている時。

それが彼の内に「あらゆる貪りを起こしました」、つまりあらゆる種類の罪を生み出した、とパウロは言います。これによって、神に対する不信仰と不満、神の戒めに対する抵抗があらわにされました。

私たちが神からの戒めを受けた瞬間、罪はそれを発射台として利用して、神に対する不信仰と不満をあらわにし、私たちの中に罪を生み出します。

アダムとエバが「善悪の知識の木からは、取って食べてはいけない。」という戒めを受けた瞬間に、罪はそれを発射台として、神に対する不信仰と不満をあらわにし、してはならないと言われたことをするように仕向けました。
イスラエル人がシナイ山に導かれ、モーセが山に登る前に、神は彼らに偶像を作ってはならないと告げました。

罪はその途端、モーセの帰還が遅れた隙に、それを発射台とし、人々の神への不信仰と不満をあらわにしました。気がつくと、それまで一度も偶像を作ったことがなかったのに、偶像を作り始めました。

中学生の時、私は寮で生活していました。その時、先輩たちが1年生を集め、私たちには公共の場で、アイスクリームなどを食べながら道を歩くことは道徳的に許されないと教えられました。

台湾とアメリカで育った私には、全く理解できませんでした。そのため、週末実家に帰ると、先輩たちがいないところで、私は何をしたと思いますか。道を歩きながら、大好きなアイスクリームを食べながら、「自分がやりたいようにやる」と考えていました。

人間であれ、神であれ、権威に対して不信感や不満を抱いていると、戒めを受けた時には、それが反逆の発射台となります。隠れていた、かつては知られていなかった、活動していなかった、死んでいたように見えた罪がよみがえります。

（2） 罪が生き返った

ローマ 7:9-11「9 私は、かつては律法なしに生きていました。しかし、戒めが来たとき、罪が生き返り、10 私は死にました。命に導くはずの戒めが、私にとっては死に導くものとなりました。11 罪が戒めによって機会を捉え、私を欺き、その戒めによって私を殺したのです。」

「かつては律法なしに生きていました。」
当初、パウロは律法に影響されずに生活していました。
自分が善人だと思っていました。
「戒めが来たとき、罪が生き返り、」
彼が「貪るな」の真の意味を理解した時、罪が生き返りました。彼はそれを止めることができず、「死に導くものとなりました。」
罪は「私を欺き」、彼を絶望させ、そして彼を「殺したのです。」

ルカによる福音書 18 章で、イエスはファリサイ派の人と徴税人が神殿で祈っているというたとえ話をしました。
ファリサイ派の人は祈りました。
「神様、私はほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でなく、また、この徴税人のような者でないことを感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。」（ルカ 18:11-12）

パウロはまさにそういう人です。彼は「律法なしに生きていました」、律法によって罪に定められていないと感じていました。悔い改めるべきことは何もありませんでした。ただ、自分をこれほど善良な人にさせてくれた神に感謝するだけでした。

しかしパウロは「貪るな」という戒めを理解するようになった時、神は人の心を見る神であり、自分がどれほど罪深い人間であるかを悟り、罪を止める力さえ持っていないことが分かりました。彼は自分が徴税人と同じように、罪に定められ、霊的に死んでいることに気付きました。

ただ**「神様、罪人の私を憐れんでください。」(ルカ18:13)**と懇願することしかできません。これが神の律法の効果です。律法は悪いものなのでしょうか。イエスによると、義とされたのは徴税人でした。

(3) 法律は善いもの

ローマ 7:12-13「12 実際、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖なるもの、正しいもの、善いものです。13 それでは、善いものが私に死をもたらすものとなったのでしょうか。決してそうではない。罪は罪として現れるために、善いものによって私に死をもたらしました。こうして、罪は戒めによってますます罪深いものとなりました。」

律法と戒めは、「聖なるもの、正しいもの、善いもの」です。しかし、律法と戒めを通して、「罪は罪として現れ」、「ますます罪深いもの」になり、「死をもたらすもの」となりました。

律法は「聖なるもの、正しいもの、善いもの」です。実際には、神の性質を描写しています。律法には私たちを救う力はありません。しかし、私たちの罪、不信仰、そして神への不満を明らかにし、私たちがどれほど罪深く、霊的に死んでいるかを悟らせてくれます。

神の律法と戒めを聞くとき、私たちにはそれに対して応答するのに 3 つの選択肢があります。
神と神の律法と戒めが間違っていると考え、無視できます。アダムとエバはそうしました。
他人が罪を犯しているが、自分は罪を犯していないと考えることができます。ファリサイ派の人々はそうでした。
パウロのように、自分は計り知れないほど罪深い人間だと考えることができます。

例えば、聖書には**「何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい」(フィリピ 2:14)**と書いてあります。
神と神の律法、神の戒めが間違っていると考えて、無視できます。
他人が罪を犯している、いつも不平を言っている、と考えることができます。
私たちは自分の心の中で不平を言っていると気づき、自分が計り知れないほど罪深い人間だと認めることができます。

ローマ 1 では、一組の男女が結婚前や婚姻関係外に、性的な想いや関係を持つことは罪であると教えられています。また、同性愛の関係も罪です。
神と神の律法、神の戒めが間違っていると考え、無視できます。
他人が罪を犯している、性的に不道徳な行為をしていると考えることができます。
私たちは自分の中で不道徳な考えを持っていると気づき、自分が計り知れないほど罪深い人間だと認めることができます。

イエスは、敵を愛し、互いに赦し合うべきだと教えています。
神と神の律法、神の戒めが間違っていると考え、無視することができます。
他人が罪を犯している、他人は愛がなく、赦す心を持っていないと考えることができます。
私たちは、自分の中では他人を軽蔑する思いや恨みがあると気づき、自分が計り知れないほど罪深い人間だと認めることができます。

これが律法の目的です。私たちがどれほど罪深いかを知るのを助けて、イエスの死を私たちの死として受け入れ、聖霊の助けによってイエスとともに復活し、新しい命を生きるためにあります。もし自分が罪深いことに気づいたなら、あなたにはイエスが必要だと律法は告げています。今日、イエスを受け入れましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg4326jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 401
人生の使命を発見する
10 月 25 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 301 まで修了した、
TBCメンバーの方

★クラス 101
教会員になるためのクラス
11 月 7 日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラスの申し込み：
https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

1.日本語訳レイアウト&印刷

（女性 2 名募集）

英語のスキルは必要ありません。

・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

***スキル：MS Word の操作ができる方。**
***TBC の教会員であることが必須です。**

2.礼拝メッセージ翻訳

・1 ケ月半～2ケ月に 1 度、自宅でできます。
スケジュールは都合に合わせて選べます。
英語と日本語が出来る方

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org